

2022年12月期 第2四半期 決算説明資料



株式会社 ヴィンクス
2022年 8月 4日(木)

証券コード : 3784

2022年12月期 第2四半期 決算説明資料

■ 決算概要

■ 主なトピックス

■ 【ご参考】B / S および C / F 等

2022年上期の前年比は、
売上高 11.3%増、営業利益 24.3%増

単位：百万円（百万円未満切捨て）

国内小売業におけるDXのニーズの高まりと、既存顧客への更なる深耕が奏功したこと等により増収増益となりました。

	実績	計画(開示)比	計画(開示)差	前年比	前年差
売上高	16,188	107.2%	1,088	111.3%	1,639
営業利益	1,576	119.9%	261	124.3%	308
経常利益	1,631	123.6%	311	128.1%	357
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,068	128.7%	238	132.8%	263

上期の進捗状況と通期見通し

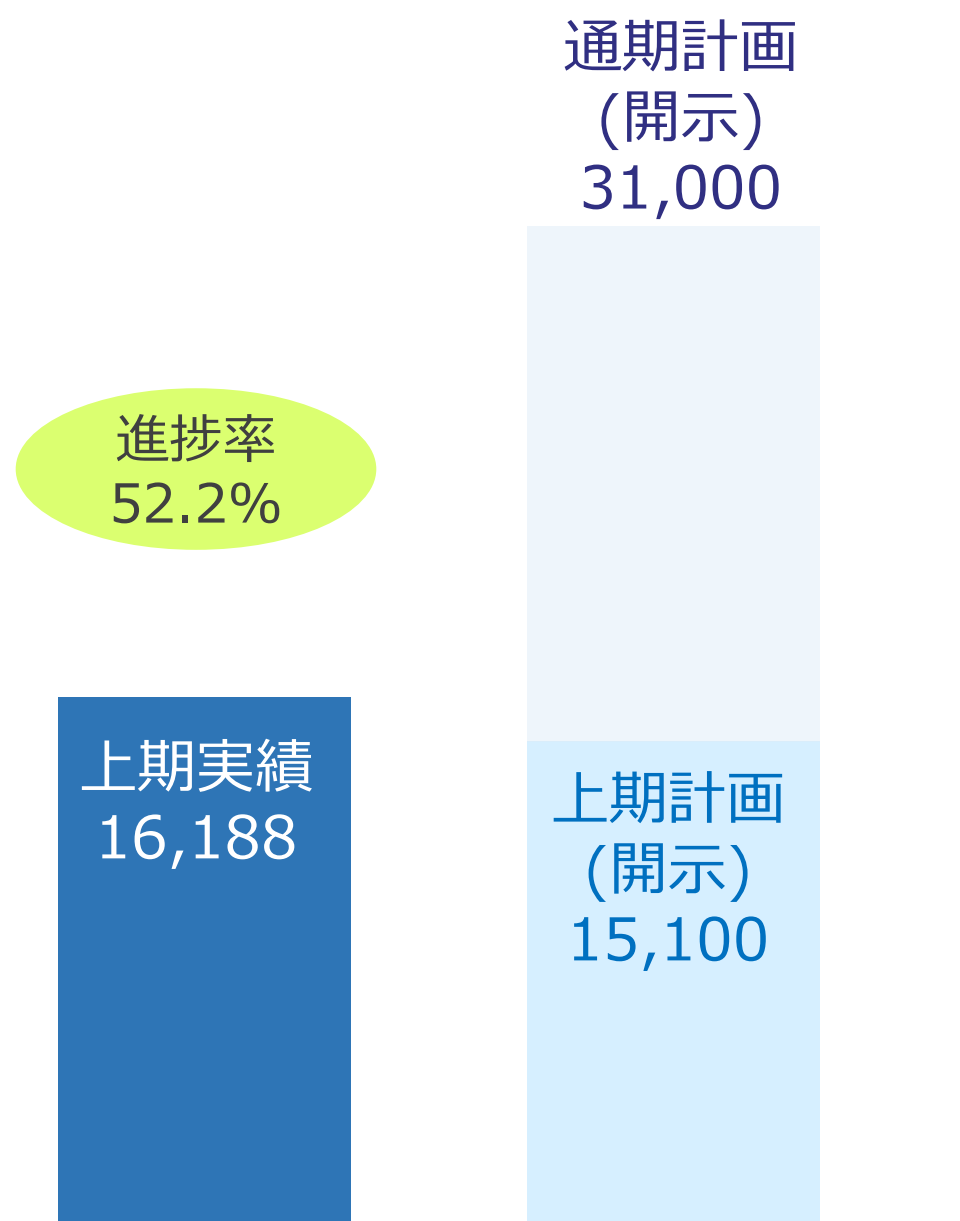
VINX

2022年度上期は、DXニーズの高まりにより、ハードウェアに依存しないPOSシステム(ANY-CUBE)、基幹システム（MDware）、自動発注システムなど、主要ビジネスであるソリューション・プロダクト分野によって、利益を順調に確保しています。

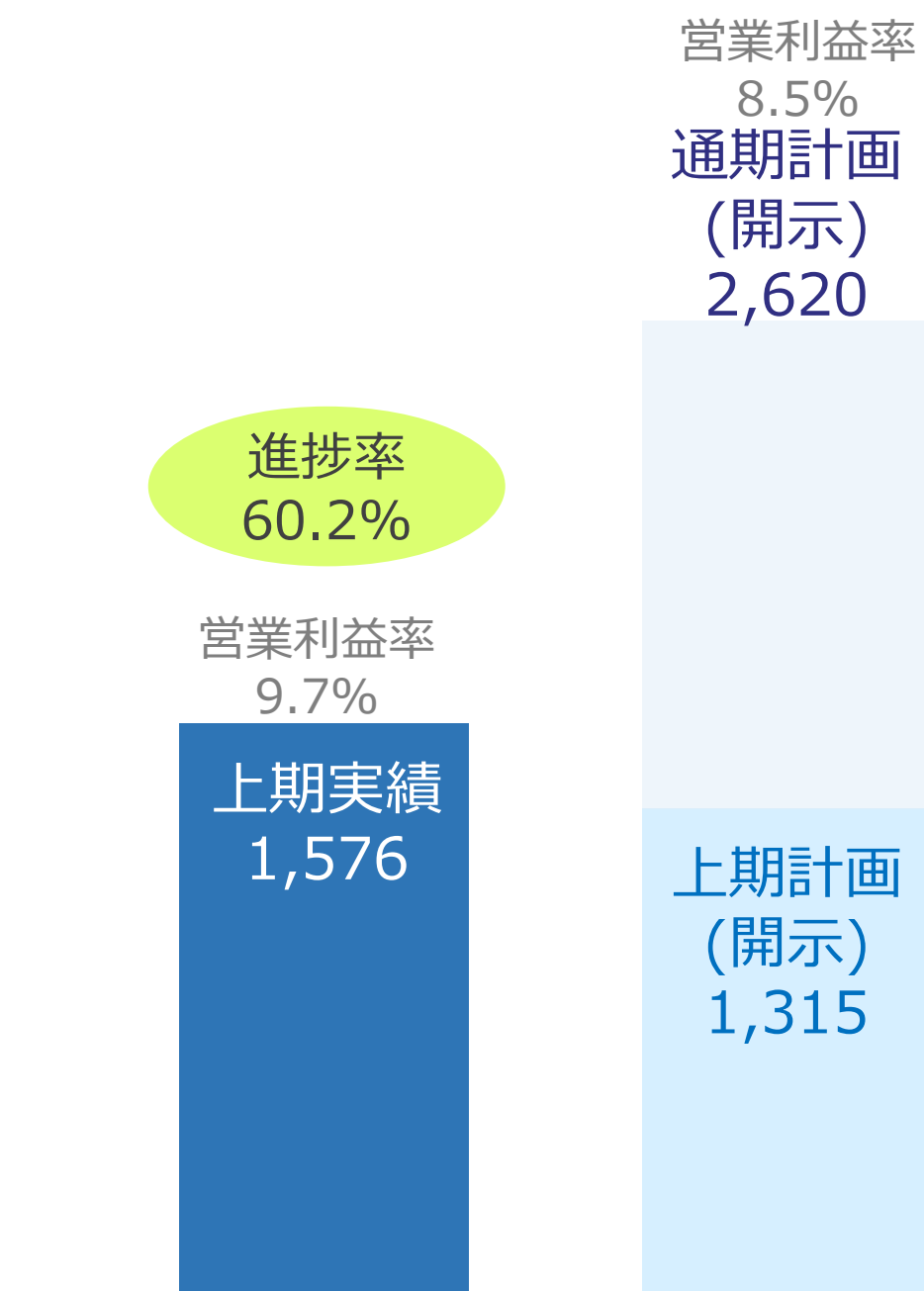
今後も引き続きDXニーズの高まりにより、順調に推移することを想定しておりますが、現時点では通期見通しを据え置いております。

単位：百万円、%

売上高



営業利益・営業利益率

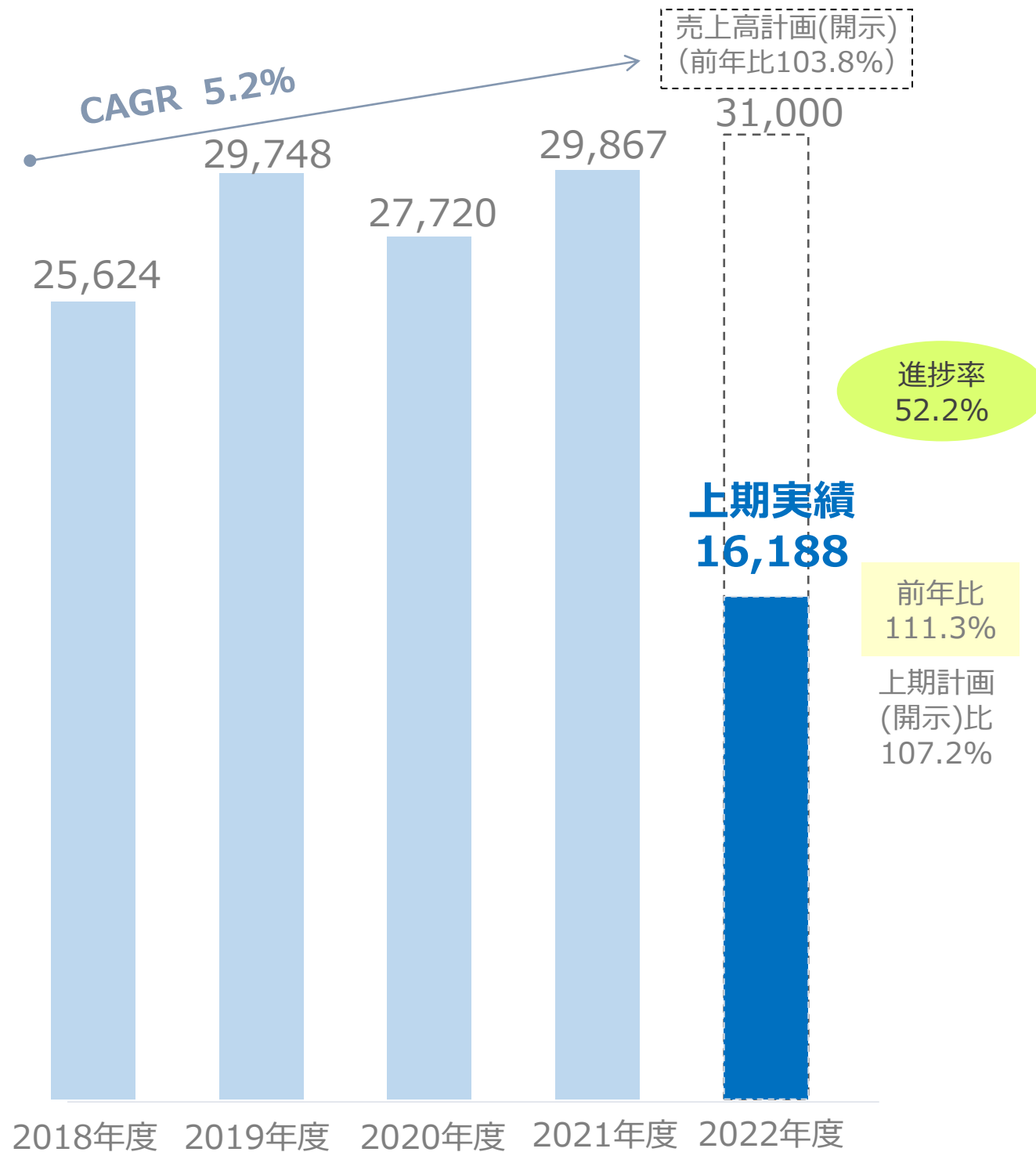


売上高・営業利益の推移

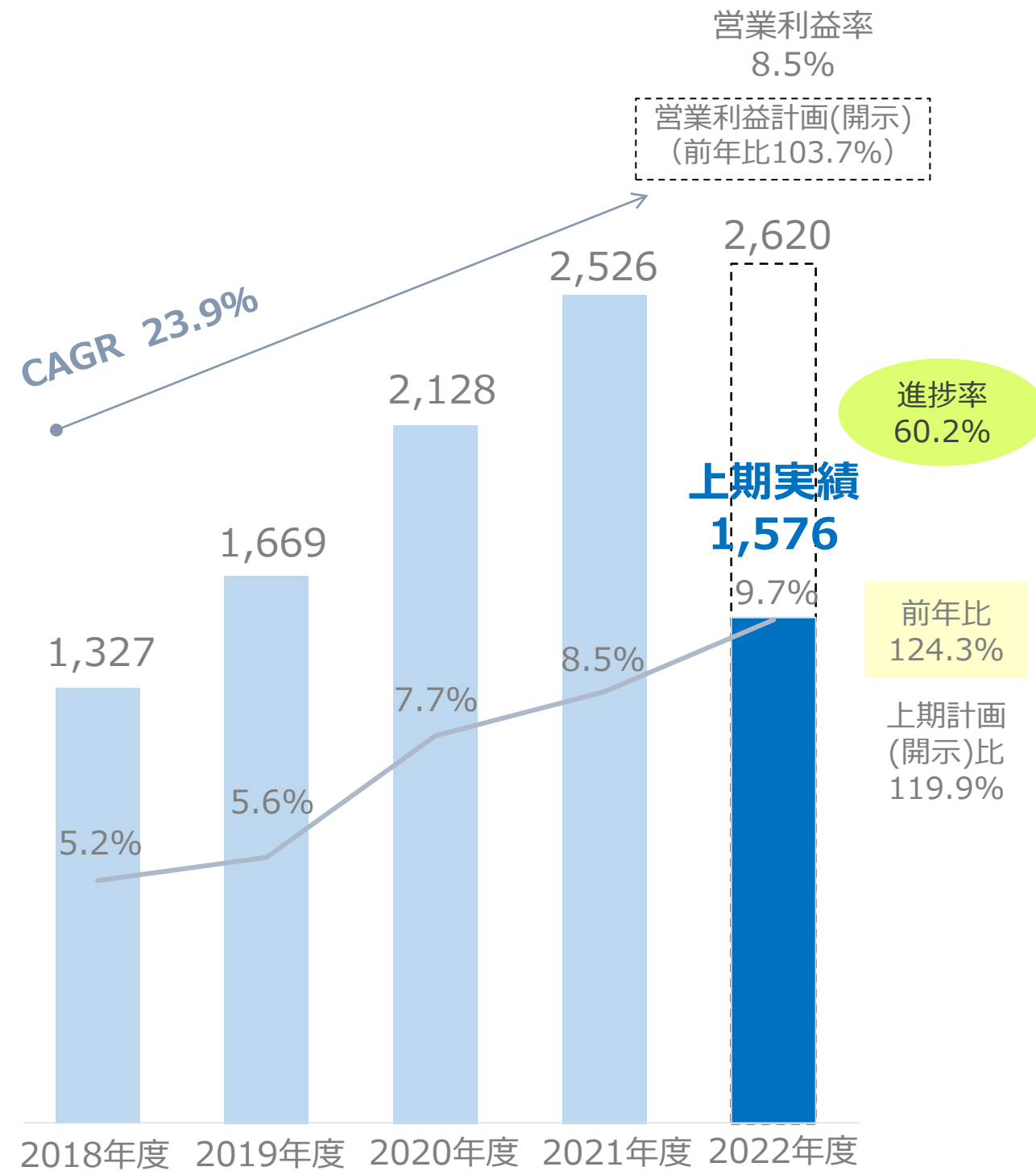
VINX

単位：百万円、%

売上高



営業利益・営業利益率



※2018年実績値は、決算期変更のため12カ月に換算した数値です。

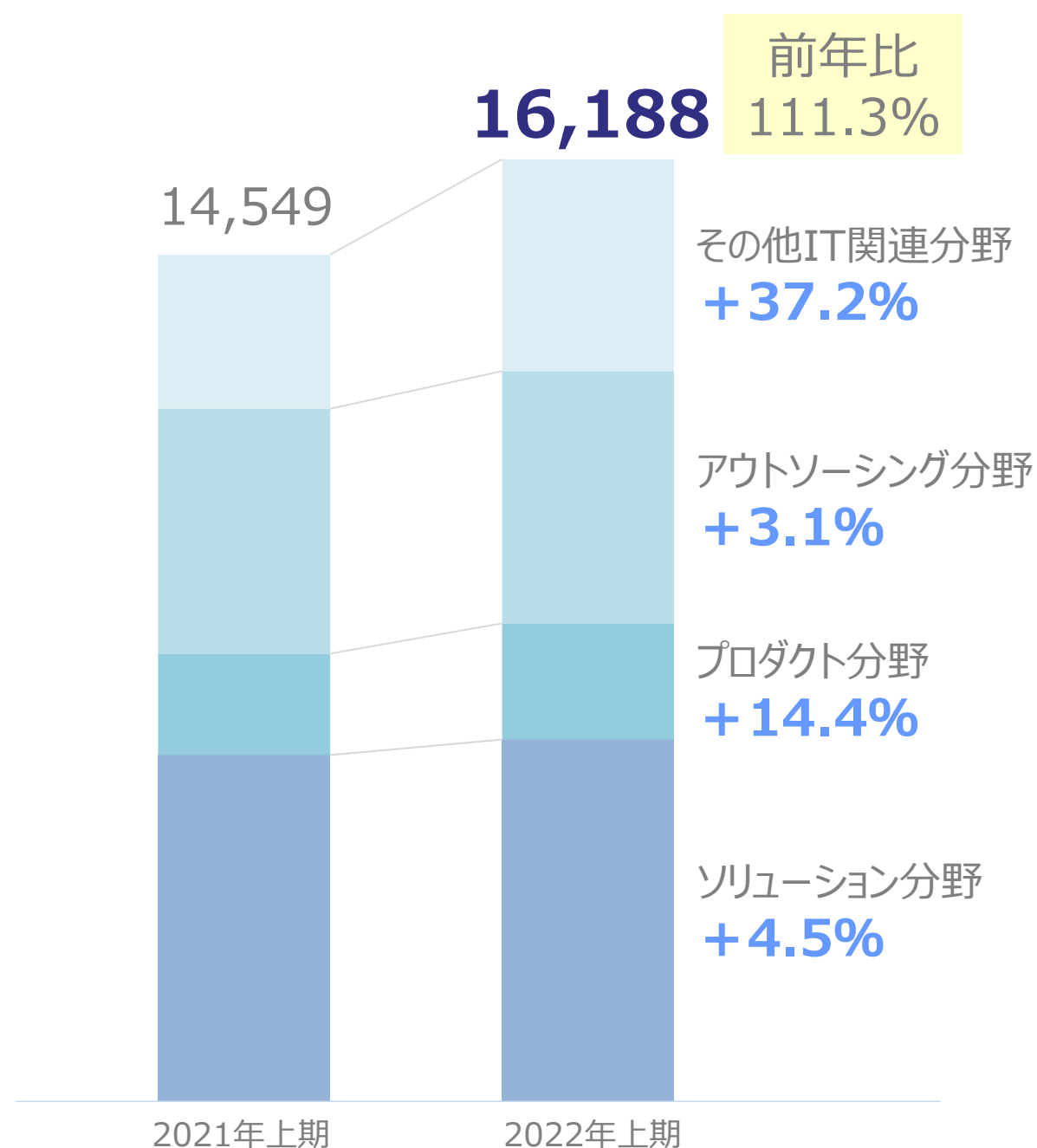
分野別 売上高・営業利益の状況（同期での比較）

VINX

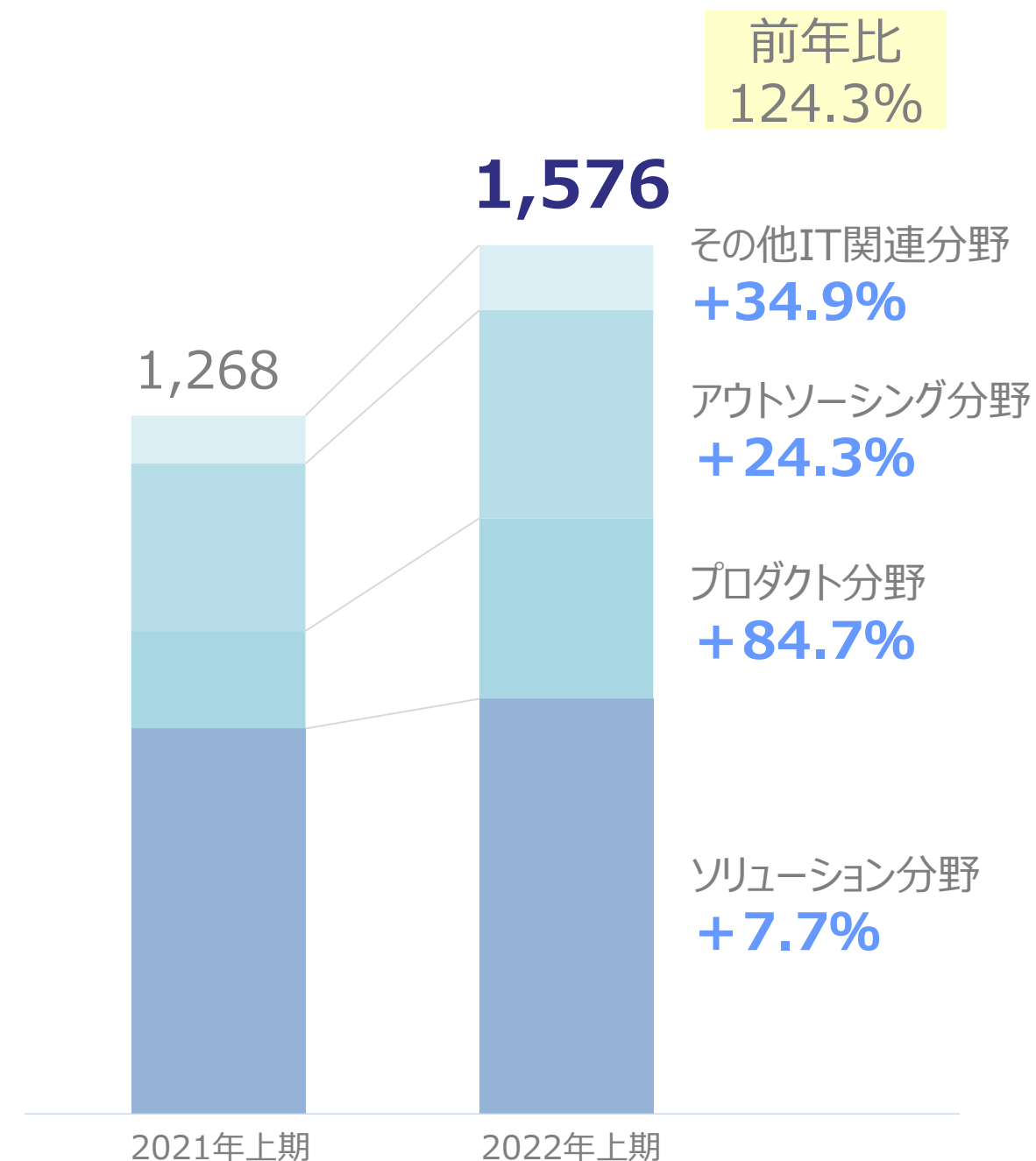
- ・ソリューション分野、プロダクト分野 : POS/MDのライセンス販売等が増加
- ・アウトソーシング分野 : 海外ビジネスがコロナ影響から一部回復し、増収増益
- ・その他IT関連分野 : 次世代セルフPOSなどのハードウェア販売および導入展開が増加

単位：百万円、%

売上高



営業利益・営業利益率



ソリューション分野・プロダクト分野 推移

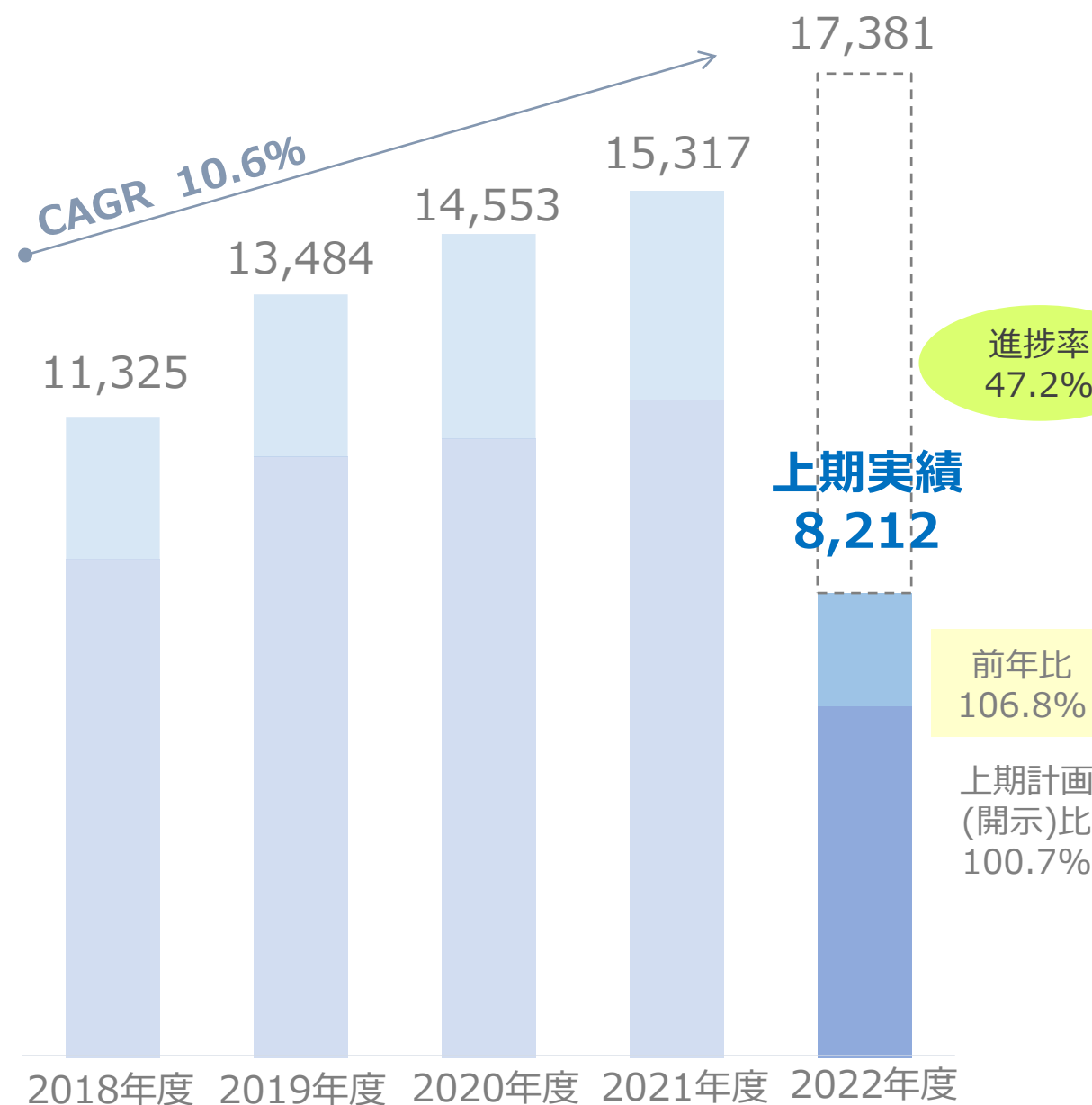
VINX

ソリューション分野・プロダクト分野は、DXニーズの高まりにより、ハードウェアに依存しないPOSシステム(ANY-CUBE)、基幹システム（MDware）、自動発注システムなど好調に推移

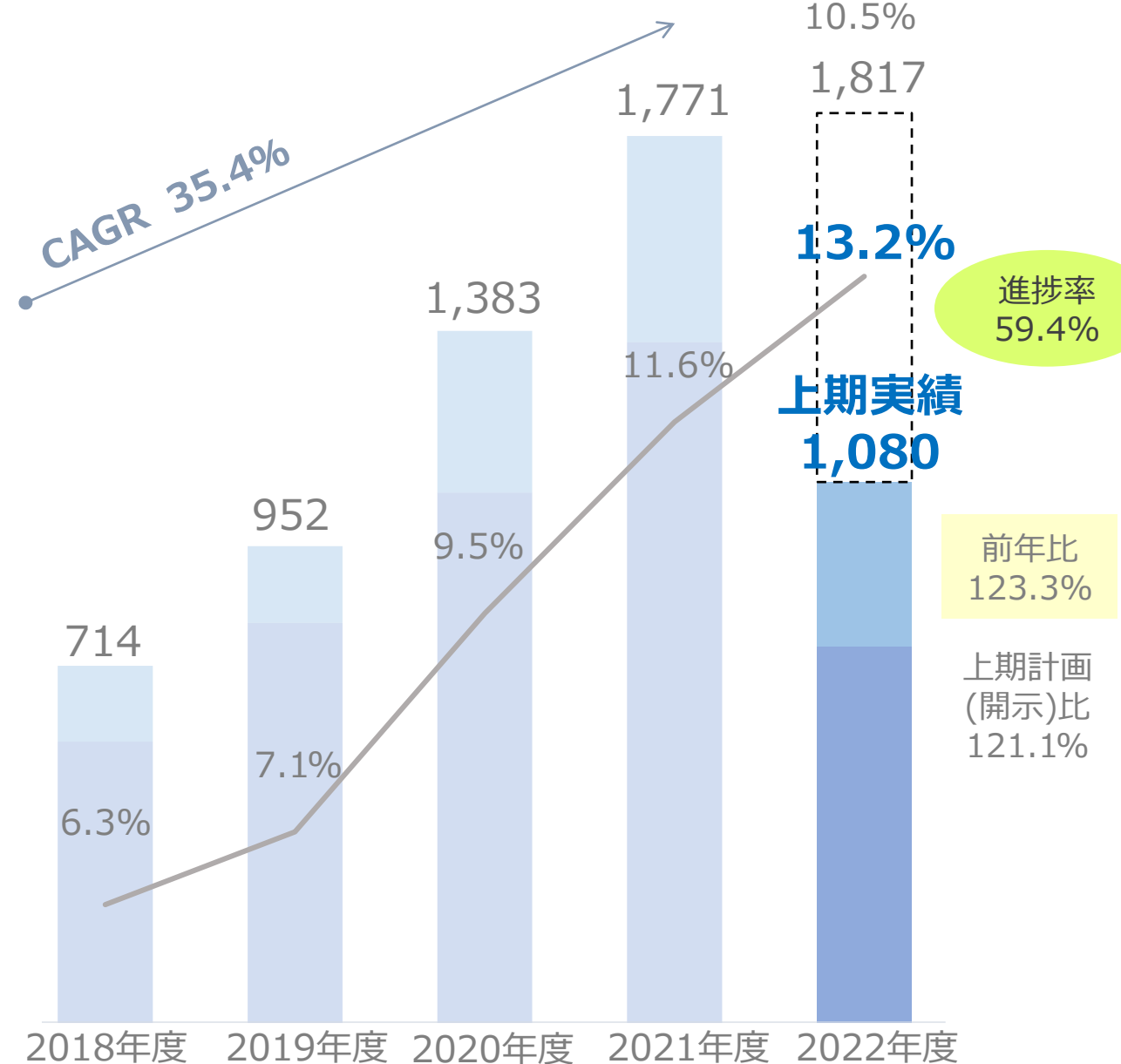
単位：百万円、%

売上高

- プロダクト分野
- ソリューション分野



営業利益・営業利益率



※2018年実績値は、決算期変更のため12カ月に換算した数値です。

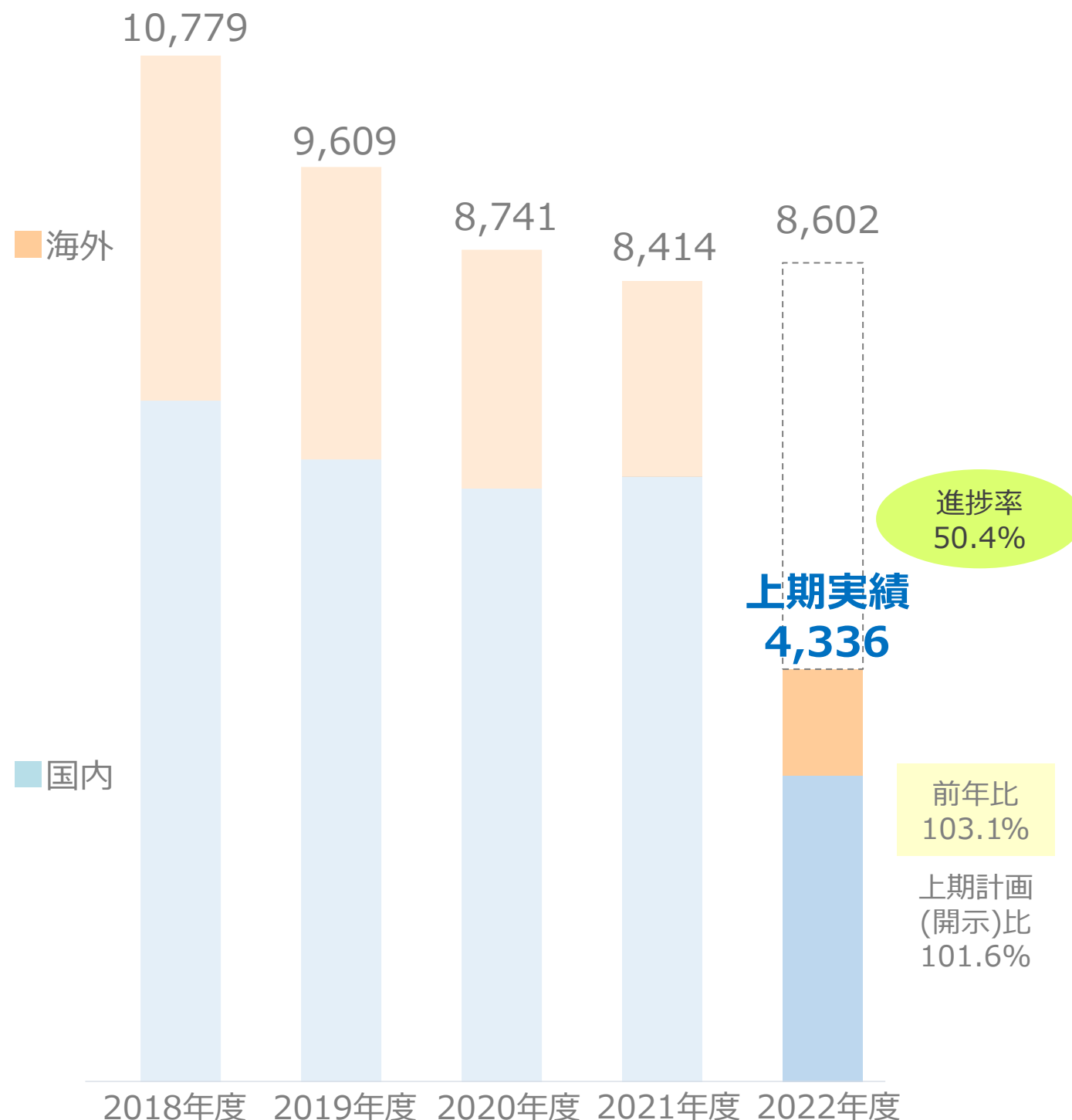
アウトソーシング分野 推移

VINX

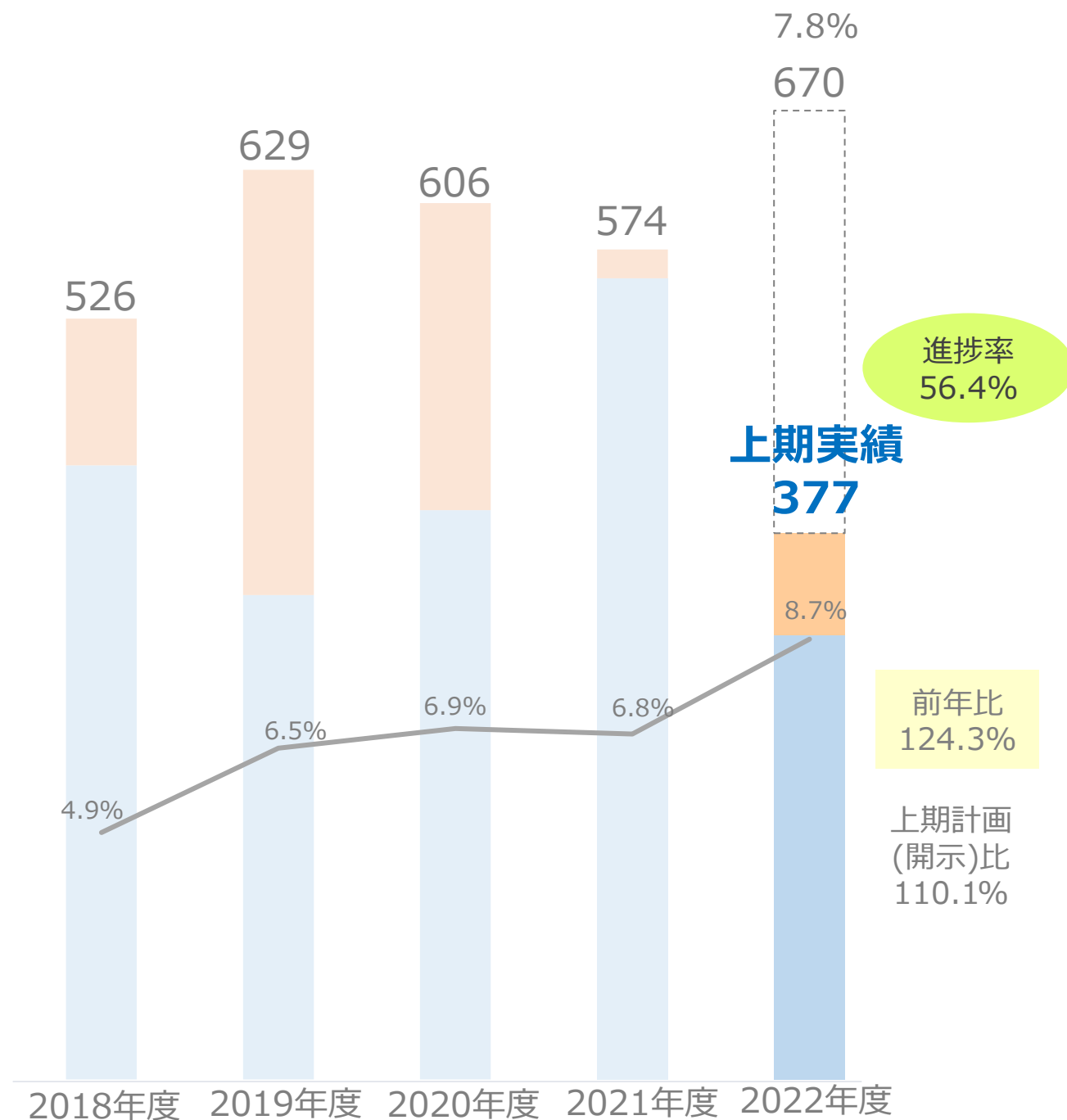
アウトソーシング分野は、海外ビジネスがコロナ影響から一部回復し、増収増益

単位：百万円、%

売上高



営業利益・営業利益率



※2018年実績値は、決算期変更のため12カ月に換算した数値です。

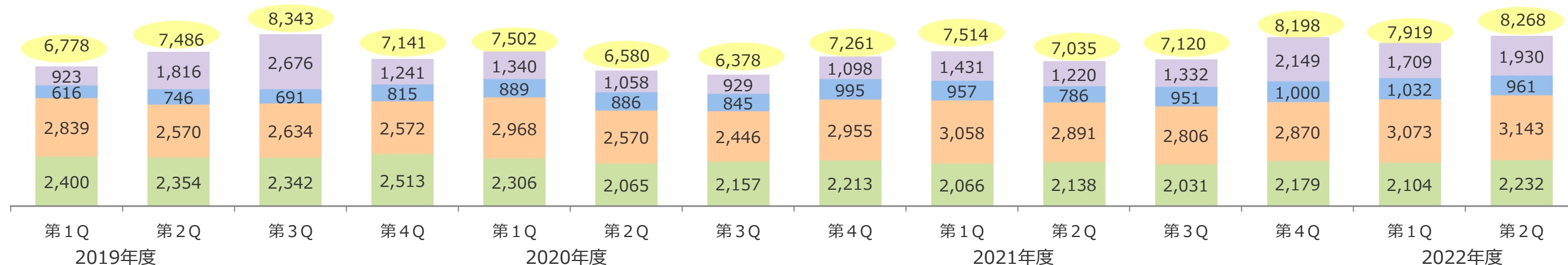
分野別状況 売上高・受注高・受注残高

VINX

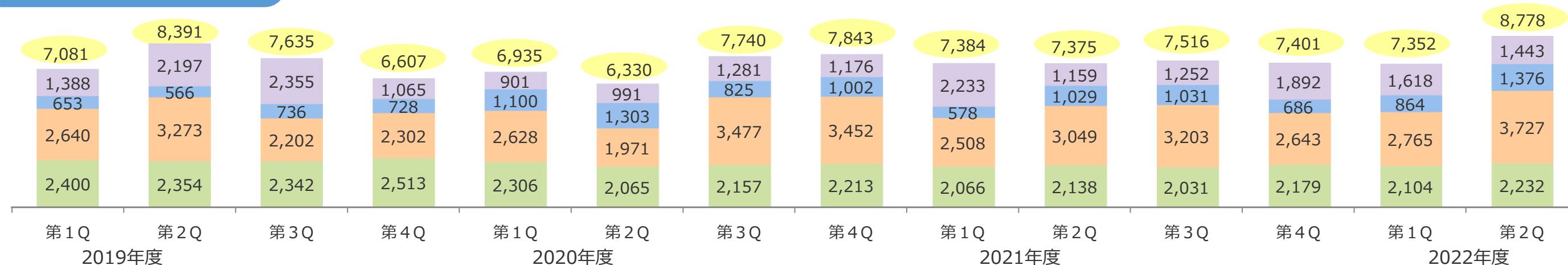
売上高推移

単位：百万円

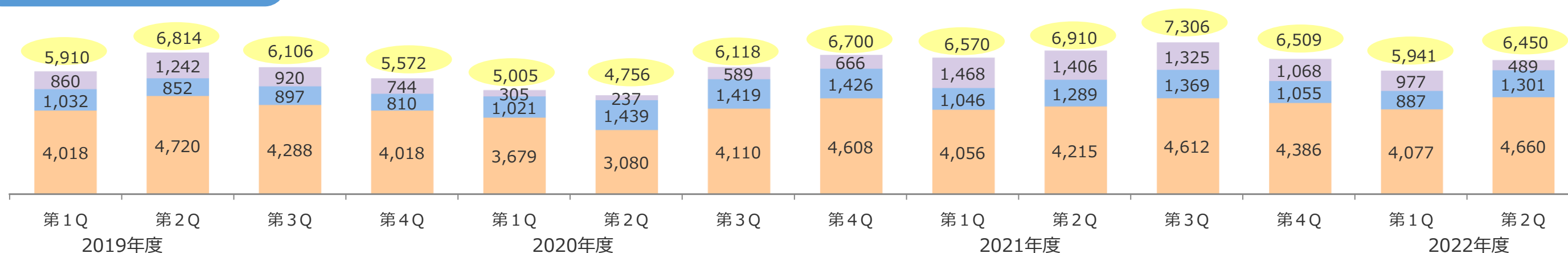
■ その他IT関連分野 ■ プロダクト分野 ■ ソリューション分野 ■ アウトソーシング分野



受注高推移



受注残高推移



※アウトソーシング分野は、受注生産型の事業形態ではないため期末受注残高の記載を省略しています。

2022年12月期 第2四半期 決算説明資料

■ 決算概要

■ 主なトピックス

■ 【ご参考】B / S および C / F 等

上期の営業活動における主なトピックス

ニューリテール戦略	流通・サービス	○ 基幹システム 関西小売業グループ様より、基幹システム「MDware」の開発案件を受注いたしました。
	ドラッグストア	○ POSシステム 関東地方を中心として展開するドラッグストア様より、次期POSシステムの開発案件を受注いたしました。
	食品スーパー	○ 顧客管理システム 関東地方を中心として展開する食品スーパー様より、CRMシステムの開発案件を受注いたしました。
	アパレル・外食・食品サービス等	○ RPA * アパレル・外食・食品サービス等の4社のお客様より、RPAの導入案件を受注いたしました。
特定顧客化戦略	流通・サービス	○ 基幹システム 総合小売業グループ様より、物流関連の基幹システムの構築案件を受注いたしました。
	スーパー	○ 基幹システム 関東地方を中心として展開するスーパー様より、基幹システムのリプレイス案件を受注いたしました。
グローバル市場戦略	エンターテインメント	○ 現地の開店支援 全国に展開する複合エンターテインメント企業の中国現地法人様より、開店支援案件を受注いたしました。
	ドラッグストア	○ 店舗IT運用 全国に展開するドラッグストア様より東南アジアの店舗ITの運用業務を受注いたしました。

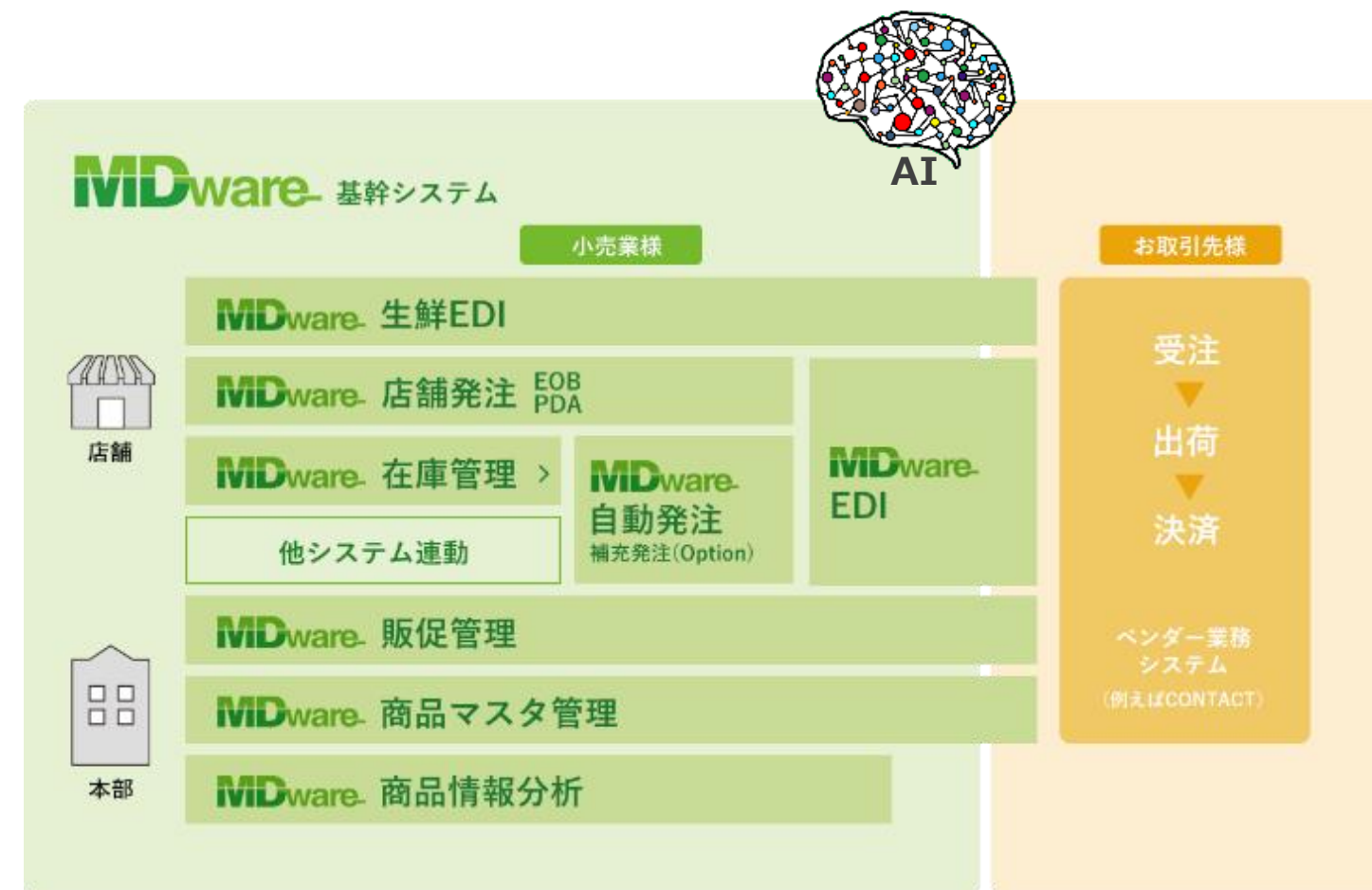
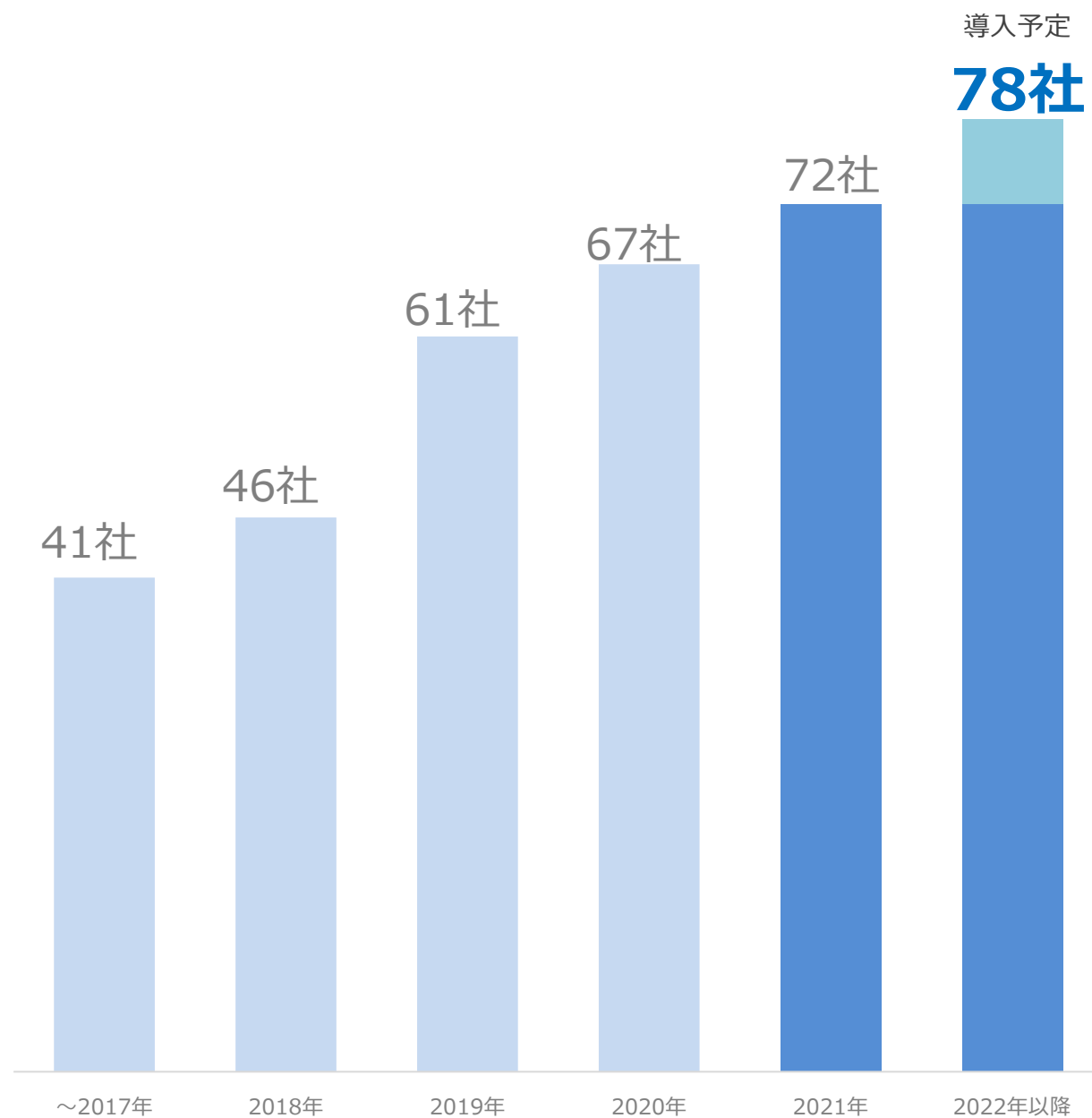
* RPA (Robotic Process Automation)
これまで人間が行ってきた定型的なパソコン操作をソフトウェアのロボットにより自動化することをいいます。

ニューリテール戦略 取り組み状況 1

VINX

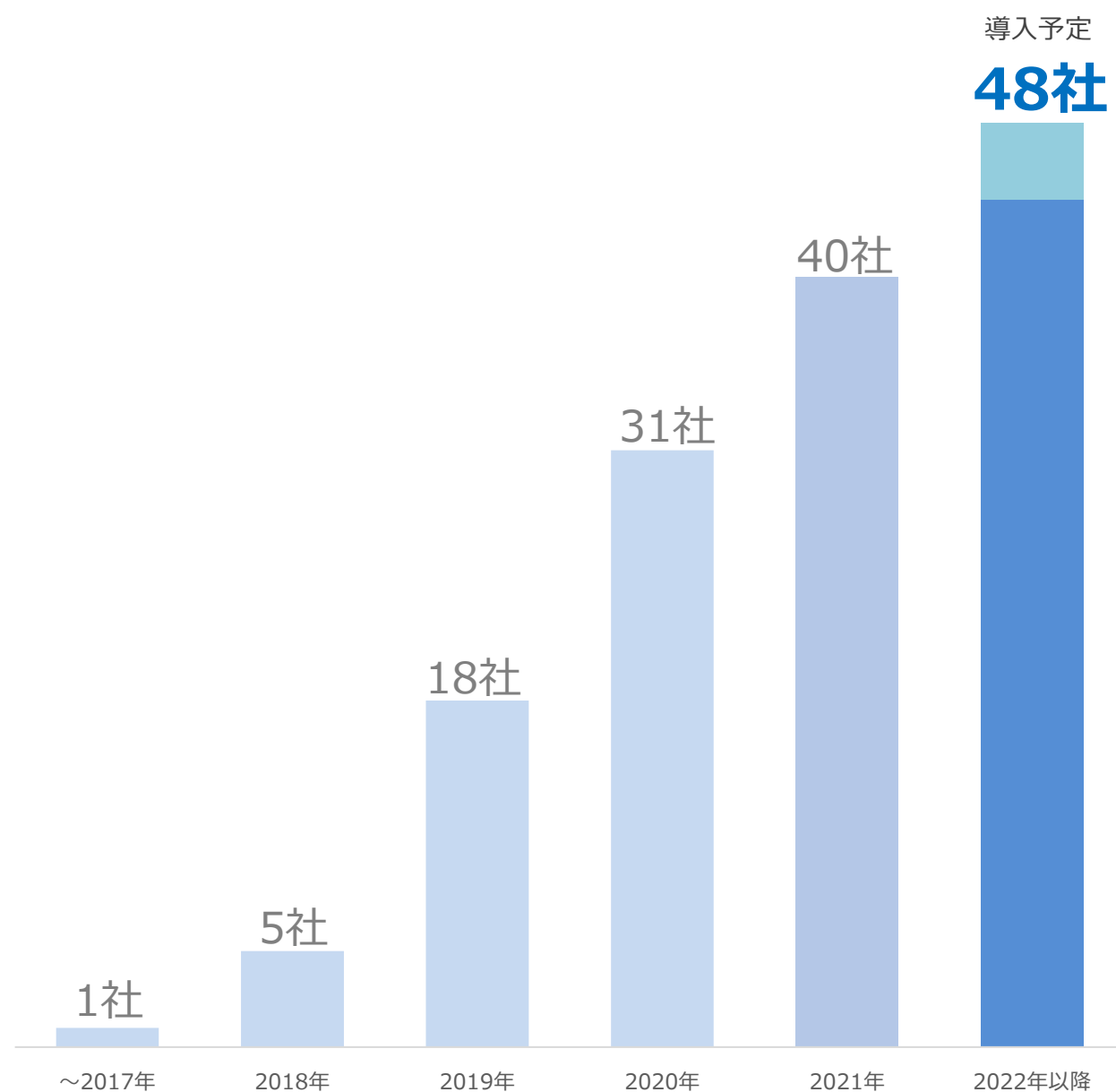
MD基幹システムの導入実績 ～DXを推進する小売業向けプラットフォーム～

MD基幹システム・自動発注 導入社数（累計）



RPA導入実績 ～自動化による小売業のお客様の業務改善～

RPA 導入社数



- BizRobo! Family Awards 受賞履歴



*『BizRobo!』はRPAテクノロジーズ株式会社のRPA製品であり、VINXは販売代理店パートナーとなります。

主要プロダクト実績状況

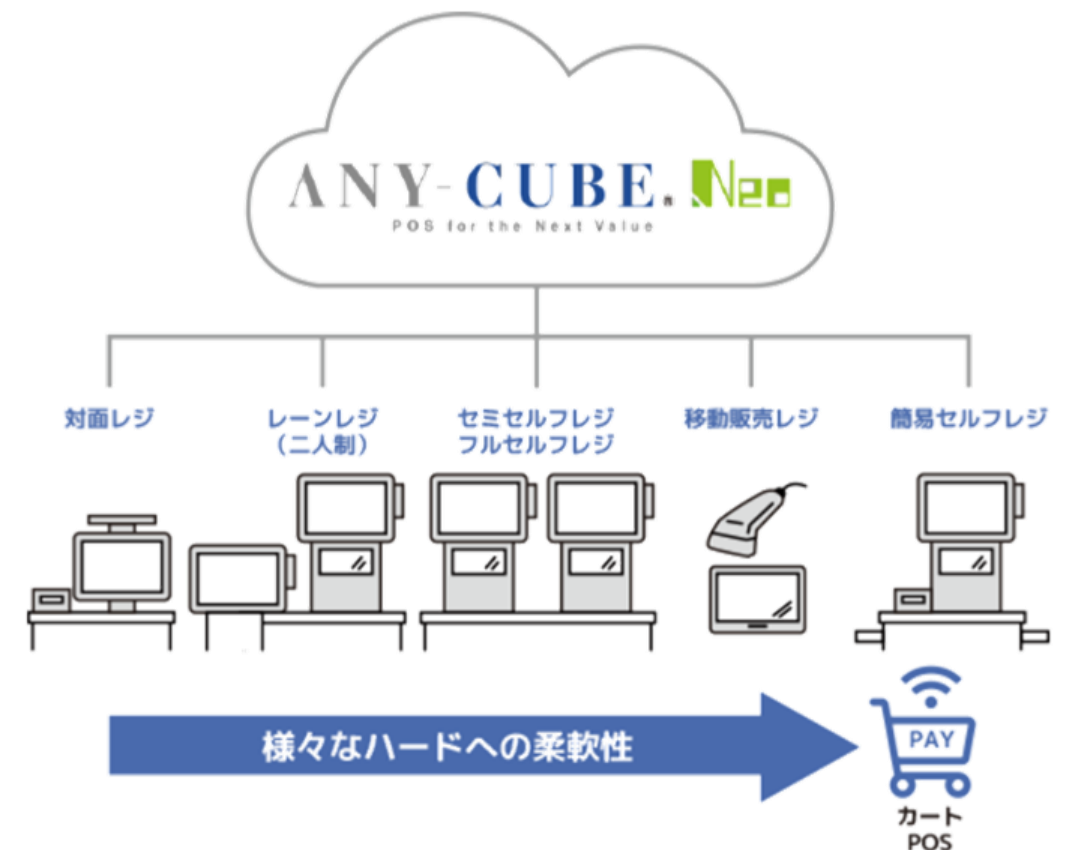
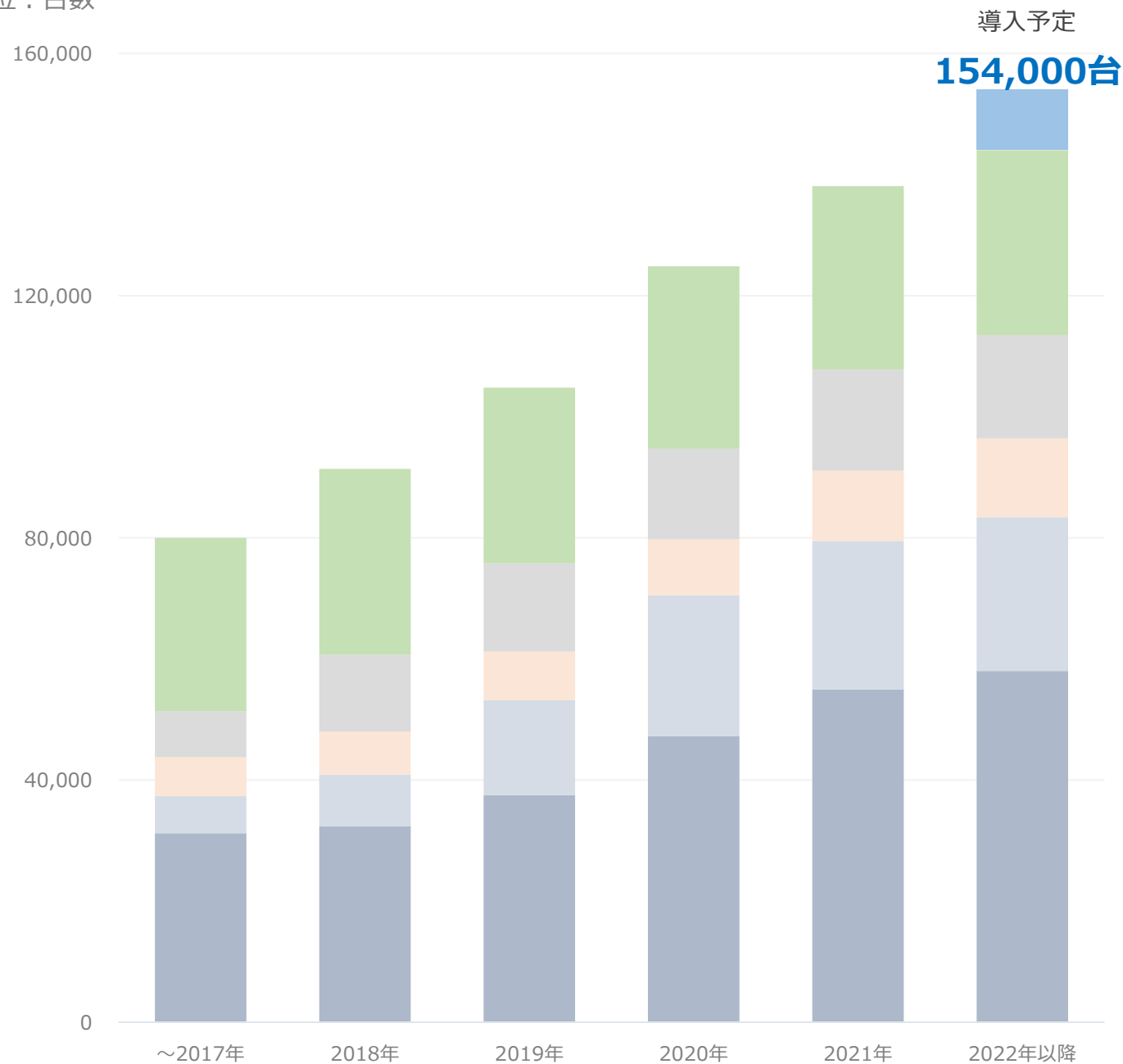
VINX

POS関連 ～ANY-CUBE・SoftWareCAT～

導入台数（累計）

■ 導入予定 ■ 導入済(その他) ■ 導入済(アパレル) ■ 導入済(SM・GMS) ■ 導入済(専門店) ■ 導入済(ドラッグ)

単位：台数



マルチ決済を実現するプラットフォーム

SoftWareCAT
シリーズ



東南アジア市場向けDXソリューションビジネスの協業について

当社は、台湾大手IT企業の「騰雲科技服務股份有限公司」（以下、「ターンクラウド」）と東南アジア市場向けDXソリューションビジネスに関して協業してまいります。

当社とターンクラウドは、2018年6月に協業の取り組みを発表して以降、中国・東南アジアにおいて、ターンクラウドのソリューションを当社の顧客向けに提供するなど、良好なパートナーシップを構築しています。このたび、東南アジア市場においてもDXニーズが高まっていることを受けて、DXソリューション分野においても協力してビジネスを推進していくことになりました。

ターンクラウドは、この取り組みについて、「日本・台湾スタートアップサミット2022」において、台湾の精鋭企業の1社として認定され、今後のさらなる期待を集めています。

当社は、ターンクラウドとともに、アジアの流通・サービス業の発展への貢献を目指してまいります。

<騰雲科技服務股份有限公司>

- ・英語名：Turn Cloud Technology Service Inc.
- ・代表者：董事長 梁基文
- ・本店所在地：新北市汐止區
- ・設立年月日：2016年3月29日
- ・資本金：1億6千万 NTD
- ・URL：<https://www.turn2cloud.com/index.html>



株式会社ホロンの子会社化について ～2022年8月～

2022年8月4日、株式会社ホロン(以下、ホロン社)株式を追加取得(所有割合9.7% ⇒ 53.2%)し、当社連結子会社化することを決議いたしました。



ホロン社は、1987年の設立時より「H O L O S（全体）とO N（個）の調和と融合」を基本理念としており、同社の主力製品である「A P－V i s i o n」は、現在までにアパレルを中心に250社を超える多くのお客様に採用頂いております。

当社は、専門店ビジネスの更なる拡大とヴィンクスグループ全体の開発力強化に寄与すると判断し、同社を子会社化することを決議いたしました。

ホロン社 会社概要

項 目			概 要
所	在	地	名古屋市中村区名駅二丁目37番21号
代	表	者 の 役 職 ・ 氏 名	代表取締役社長 小泉 登
事	業	内 容	ソフトウェアの企画・設計・開発・運用保守
資	本	金	6,080万円
主	な	製 品	販売物流基幹システム「A P－V i s i o n」他
U	R	L	https://www.holon.ne.jp/

当社関連記事のご紹介

①『DIAMOND Chain Store online』

「ヴィンクス レジレス店舗の支援から基幹システム開発まで
現場を熟知したノウハウで流通業のDXを強力にサポート」

雑誌「ダイヤモンド・チェーンストア」のオンライン記事に、
小売業が抱えている課題に対する当社のソリューション、
取り組み等の内容の記事が掲載されました。

<https://diamond-rm.net/promotion/102542/>



②カードビジネス総合情報誌『Card Wave』(No.341 号)

「非接触式のセルフPOS システムをリリース“空中操作”で
完全タッチレスを実現」

当社製品に対する期待内容の記事が掲載されました。



「VINXニューリテール・コラム」のご紹介

当社ホームページ上（<https://www.vinx.co.jp>）に「VINXニューリテール・コラム」ページを開設致しましたので、ご紹介いたします。

“ニューリテール（新しい小売業）を支えるIT”をテーマに、当社で製品企画～開発～導入～運用を担当する様々な部門の技術者から、その多様な取り組みをコラムとしてご紹介してまいります。

<VINXニューリテール・コラムページ>

<https://www.vinx.co.jp/blog/>



コラム記事は今後も定期的に追加掲載してまいりますので、当社の様々な活動や新たな取り組み、ビジネスマインドのご理解の一助としてご愛顧いただけますようお願い申し上げます。

利益体質の改善が順調に図れていることから、2022年度より配当政策を見直いたします。
2022年度については、配当性向35.2%、年間15円増配し、35円を計画しております。

	年間配当金			配当金総額合計 (百万円)	配当性向（連結） (%)	純資産配当率(連結) (%)
	第2 四半期末 (円)	期末 (円)	合計 (円)			
2020年度	6.5	7.5	14.0	235	19.3	2.9
2021年度	7.0	13.0	20.0	336	20.8	3.5
2022年度	17.5					
2022年度 (予想)		17.5	35.0	—	35.2	—

2022年12月期 第2四半期 決算説明資料

■ 決算概要

■ 主なトピックス

■ 【ご参考】B／SおよびC／F 等

貸借対照表

単位：百万円（百万円未満切捨て）、％

区分	2022年12月期 第2四半期末		2021年12月期 期末	
		構成比 (%)		差額
流動資産	16,544	79.8	15,976	567
固定資産	4,176	20.2	4,528	▲351
＜有形固定資産＞	921	4.4	1,066	▲145
＜無形固定資産＞	1,320	6.4	1,536	▲215
＜投資その他の資産＞	1,934	9.3	1,925	9
資産合計	20,720	100.0	20,505	215
流動負債	6,479	31.3	6,972	▲492
固定負債	1,975	9.5	2,394	▲419
負債合計	8,454	40.8	9,366	▲911
純資産	12,266	59.2	11,138	1,127
負債・純資産 合計	20,720	100.0	20,505	215

＜貸借対照表のポイント＞

主な増減要因は、以下の通りです。

- ・資産
 - 現金及び預金 13億 58百万円増加
 - 受取手形、売掛金 7億 89百万円減少
 - 及び契約資産 1億 15百万円減少
 - 工具、器具及び備品 1億 85百万円減少
 - ソフトウェア
- ・負債
 - 買掛金 3億 60百万円減少
 - 未払金 2億 3百万円減少
 - 長期借入金 3億 8百万円減少
- ・純資産
 - 利益剰余金 8億 49百万円増加
 - 為替換算調整勘定 2億 49百万円増加

キャッシュ・フローの状況

VINX

単位：百万円（百万円未満切捨て）

税金等調整前四半期純利益	1,611
減価償却費	401
その他	391
小計	2,404
利息、法人税等の支払額等	▲492
営業活動によるキャッシュ・フロー ①	1,911
有形固定資産の取得による支出	▲25
無形固定資産の取得による支出	▲108
定期預金の預入による支出	▲590
定期預金の払戻による収入	255
その他	▲4
投資活動によるキャッシュ・フロー ②	▲473
短期借入れによる収入	1,000
短期借入金の返済による支出	▲1,105
長期借入金の返済による支出	▲312
配当金の支払額	▲218
その他	▲3
財務活動によるキャッシュ・フロー ③	▲639
現金及び現金同等物に係る換算差額	201
現金及び現金同等物の増減額（▲は減少）	1,000
現金及び現金同等物の期首残高	7,324
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,324

<キャッシュ・フロー計算書のポイント>

第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は83億24百万円となりました。

詳細は以下の通りです。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、19億11百万円増加しました。

<主な要因>

- ・税金等調整前四半期純利益の計上

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、4億73百万円減少しました。

<主な要因>

- ・無形固定資産の取得
プロダクトソフトウェアの開発等
- ・定期預金の預入れ

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、6億39百万円減少しました。

<主な要因>

- ・長期借入金の返済
- ・配当金の支払

分野別状況 売上高・営業利益



単位：百万円（百万円未満切捨て）、％

売上高	2022年度上期		計画対比			前年対比		
	実績値	売上構成	計画値	計画比	計画差	実績値	前年比	前年差
1.アウトソーシング分野	4,336	26.8%	4,267	101.6%	69	4,204	103.1%	132
2.ソリューション分野	6,217	38.4%	6,179	100.6%	38	5,949	104.5%	268
3.プロダクト分野	1,994	12.3%	1,978	100.8%	16	1,743	114.4%	251
4.その他IT関連分野	3,639	22.5%	2,676	136.0%	963	2,651	137.2%	987
合計	16,188	100.0%	15,100	107.2%	1,088	14,549	111.3%	1,639

営業利益	2022年度上期		計画対比			前年対比		
	実績値	営業利益率	計画値	計画比	計画差	実績値	前年比	前年差
1.アウトソーシング分野	377	8.7%	343	110.1%	34	303	124.3%	73
2.ソリューション分野	752	12.1%	700	107.5%	52	698	107.7%	53
3.プロダクト分野	327	16.4%	192	170.6%	135	177	184.7%	150
4.その他IT関連分野	118	3.3%	80	148.1%	38	87	134.9%	30
合計	1,576	9.7%	1,315	119.9%	261	1,268	124.3%	308

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。

正確性を期すために慎重に行っておりますが、正確性・完全性を保証するものではありません。

また、本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は当社の公表している将来見通しとは大きく異なる結果となる場合があることをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ

株式会社ヴィンクス
企画本部 経営企画部
連絡先：03-5637-7607